

もの盗られ妄想…

⇒「受容と共感」の態度で接しましょう



妄想は、「信じて考えを変えられないこと」です。
どんな説教も無効です。

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

認知症の初期から中期にかけて現れる周辺症状の一つです。認知症の特徴的な症状で、アルツハイマー型認知症の人の約半数に見られます。もしも、自分の大切な物が見当たらない場合、ふつうは、“なくしてしまった” “どこかに置き忘れてきたのではないか” というように、自分の責任だと感じるのではないのでしょうか。

ところが認知症の人は、“盗まれた” と思い込みます。認知症の特徴である自己有利の法則（自分の失敗を認めようとしない）がよく表れているといえます。根底には、認知症による記憶障害からくる自分の認知症への不安や葛藤、周囲に理解されない不満があるようです。

また、過去にお金に苦勞した経験があったり、一人暮らしが長かった人に症状が現れやすい、と考えている専門家もいます。（自分の財産や大切なものを必死で守ろうとするために過剰に反応しているなど）ですから、本人がこれまで過ごしてきた人生を考え、なぜそのように疑うのかという理由を理解し、受け入れることが大切です。

なお、この“もの盗られ妄想”で犯人にされるのは、多くの場合、家族の中でもいちばん身近で、たいていは認知症の人のお世話をしている人です。犯人だと言われた人は、ひどい話だと思われることでしょう。身に覚えのないことを言われて怒りを覚えるかもしれません。しかし、もっとも安心できる人だと思っているのです。だからこそ、無意識のうちに好き勝手なことを言ってしまう、という心情を、理解する必要があります。

この症状は、言動そのものよりも、周囲の捉え方（家族がこれは認知症の症状の一つなのだとして理解する）次第で、聞き流したり、混乱を防ぐことができるのです。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P134-137

山口晴保, 紙とペンでできる認知症診療術, 協同医書出版社, 2016, P205-206

吉田勝明, 認知症は接し方で100%変わる!, IDP出版, 2017, P121-122

2022.6作成

【 対応方法 】

①まずは本人の**思いをしっかりと聞いて、気持ちに共感**しましょう。

「私が盗ったと思っているのですね」 **(リフレージング)**

「お財布がなくなって困っているのですね」 **(共感)**

相手の言うことをその通りに言い返すこと

②本人を突き放さず、少しずつでも関わりましょう。

「**一緒に**捜してみませんか」 **(ポジティブな声かけ)**

「出てくるといいですね」

「見つかったらおいしいものを食べに行きましょう」



すると、本人が自分の言うことを対象者が聞いた（受け止めた）と感じ、怒りが収まることがあります

ポジティブな声かけを続けると気分が少し変わり、何を怒っていたのか忘れてくる可能性があります

③介護する側の**発想の転換と気分転換**が大切です。

「いくら入っているのですか？」 「わー、お金持ちですね」

何よりポジティブな声かけをしている妄想対象者の心がポジティブになります（心理的ストレスが低減）

他に、似たような財布をたくさん用意しておいて、本人に捜してもらうという方法もあります。疑いの矛先を向けられている人は、大きなストレスを抱え、自分が孤立しているように感じることがあります。**ほかの家族は、その人を陰からサポート**するように心がけましょう。

ときには、一人で探してもらったり、他のご家族や、事情を知る第三者に協力してもらい、一緒に探してもらったり、話を聞いてもらいましょう。



見つかったときには、「見つかってよかったですね」と、本人に寄り添う言葉をかけた方がいいでしょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P134-137

山口晴保, 紙とペンでできる認知症診療術, 協同医書出版社, 2016, P205-206

吉田勝明, 認知症は接し方で100%変わる!, IDP出版, 2017, P121-122

2022.6作成